

歴史民俗資料館特別展

古絵図に何が

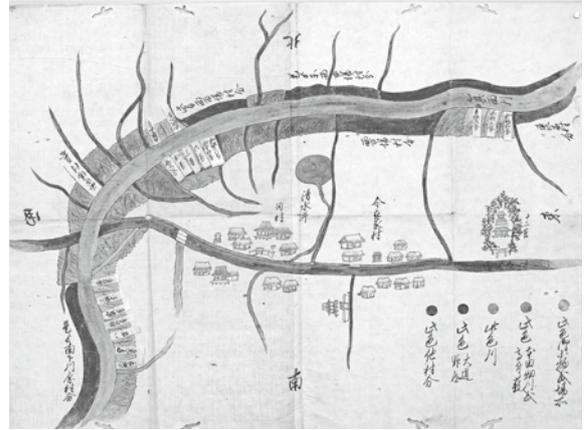
かかれていますか？

— 絵図にみる池田市域 — 第3回

今月16日から、歴史民俗資料館では古絵図をテーマとする特別展を開催します。江戸時代の池田市域には20を超える村がありました。前回は、そのうちのひとつ池田村の絵図について触れましたが、今回は、次の2つの村絵図を紹介します。

今在家村の絵図

まず、「今在家村絵図」をみてみましょう。今在家村は現在の池田市豊島南1〜2丁目を中心に位置した村です。絵図の中央を朱色で太く描かれた「西国街道(西国街道)」が東西に通っています。西国街道は京都と西国とを結ぶ当時の主要幹線道路で、参勤交代の大行列もこれを通りました。道の両側には茅葺き屋根の建物が十数軒描かれており、今在家村の集落を示しています。門扉や土壁、瓦葺きの建物は、受楽寺や正福寺を表しているのかもしれない。



▲「今在家村絵図」(池田市教育委員会所蔵)

ません。

村の北側を東から西に曲がりながら流れる箕面川の両岸には、草むらが描かれています。黄色「小物成場所」、緑色「本田畑川成高付藪」、黒色「他村分」の3色に塗り分けられています。黄色の部分には区切り線があり、面積を記したとみられる紙片が何枚も貼られています。「小物成」とは年貢とは別に徴収された雑税のことで、山林、藪、茶畑など幅広く掛けられました。また、「川成」とは洪水のため荒地となり耕作不能となった田畑をいい、年貢は免除されました。この絵図から箕面川沿いの土地の状況を知ることができます。

畑村の絵図

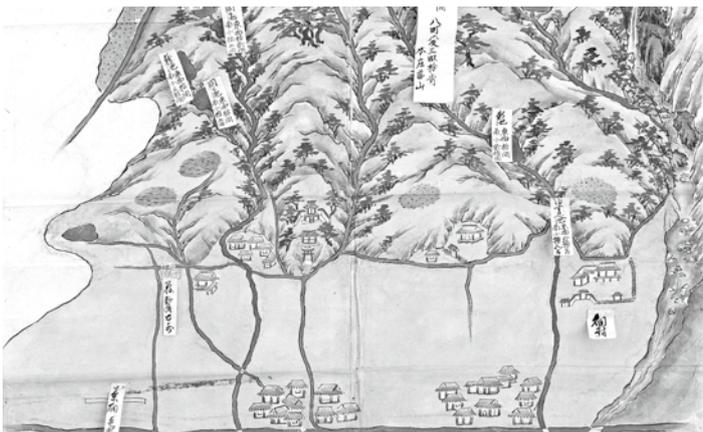
次に宝暦9年(1759)作成の「畑村本庄山小物成絵図」をみます。畑村は、現在も住居表示「畑1〜5丁目」としてその名前が引き継がれており、江戸時代初期に東畑村と西畑村に分かれたとされています。

この絵図のほとんどを占めるのは、五月山の一部「本庄山」と呼ばれる山です。尾根の様子や樹木、滝(石澄の滝)などが写実的に描かれているのが目を引きます。

山の南側は黄色で色付けされた田が広がっており、その南側には東西にのびる道路が赤で描かれています。これは、勝尾寺から中山寺に続く西国巡礼道にあたります。街道沿いに描かれたふたつの集落は東畑村と西畑村で、建物はいずれも茅葺き屋根になっています。また、本庄山のふもとに描かれた瓦葺きの建物と朱塗りの鳥居は天満宮で、畑村などの氏神です。

この絵図も小物成に関する絵図で、凡例に水色は「御小物成山林」と示されているように、本庄山のほとんどが小物成の対象地でした。

今回の特別展では、この2点の絵図



▲「畑村本庄山小物成絵図」部分(西畑町内会所蔵)

のほかにも池田市域の村を描いた絵図を紹介しています。

今回はこの本庄山をめぐる畑村と近隣の村々との間で生じた山論の絵図について紹介します。

12ページ「ミュージアムガイド」に展示案内と期間中のイベントを掲載しています。併せてご覧ください。

◆問い合わせは歴史民俗資料館
☎ 751・3019